

社団法人日本新体操連盟

平成19年度第3回理事会議事録

1. 会議名： 平成19年度第3回理事会
2. 日時： 平成20年3月6日(木)18時30分～21時10分
3. 場所： 東京都港区西麻布3-2-32 「麻布霞会館・202号室」
4. 構成員現在数： 21名
5. 出席役員： 二木 英徳(会長) 朝倉 正昭(副会長) 福本 隆(副会長)
石崎 朔子(常務理事) 関田史保子(常務理事) 渡辺 守成(常務理事)
秋山エリカ(理事) 池田真喜子(理事) 谷口 裕代(理事)
橋本 千波(理事) 山崎 浩子(理事)
高橋 明(副会長) 荒井 隆(専務理事) 岩本 晃(理事)
上村 郁子(理事) 岡 久留実(理事) 谷原 誠(理事)
藤島八重子(理事) 田中 元(監事) 横田 章(監事)
以上20名(うち委任状出席9名)

6. 欠席役員： 崇島 慎一(理事) 以上1名

7. 議案：
報告事項
報告事項1 第10回全日本新体操チャイルド選手権・大会実施報告
(定款第5条関連事項)
報告事項2 お試しバッジテスト・実施報告(定款第5条関連事項)
報告事項3 その他
決議事項
第1号議案 平成19年度第2回総会-平成20年度事業計画-について
(定款第5章関連事項)
第2号議案 その他

8. 議事の経過及び結果

(1) 議長による開会宣言

(社)日本新体操連盟・定款第24条第2項の定めにより議長を会長二木英徳がつとめ、開会宣言を行った。

(2) 議事録署名人の選出

定款第32条により、議長は議事録署名人を朝倉正昭副会長と池田真喜子理事にする事を議場に諮り承認された。

(3) 定足数の確認

定款第25条の定めにより、理事会出席者数委任状含めて18名であることが池田理事より告げられ、議決定足数を満たしている事が報告された。

(4) あいさつ

議長は挨拶をすませ、福本副会長が進行を務めるよう依頼した。

(5) 報告事項

1 第10回全日本新体操チャイルド選手権・大会実施報告(定款第5条関連事項)

議長は説明者として池田理事を指名し、池田理事は下記内容の説明を行った。

大会が2月22日から24日まで「東京体育館」で開催された。参加者は過去最多の401クラブ908名で開催できたことは喜ばしいことであった。

大会2日目はチケットが完売するなど、大変多くの来場者を迎えた。

今大会は審判数が多いため、大会経費が多くかかること、申告書のコピーが大量になり、作業に1週間以上とられる上、資源的にも見直す余地がある。そのため審判数の検討を願いたい。

前回大会の3,4年生の部で最低点が0点台と低かったため、第10回大会から配点方法を変更した。その結果、最低点が3.33となり、参加者よりクレームが出ることは無かった。

ルールに関してアンケートをとり、ほとんどが適度なルールであるという結果がでた。しかし、中にはルールに対して改正を望む声があり、参考にすることも必要だと感じた。

質疑・報告

1. 石崎常務理事より、現状の日本選手の手具操作レベルを考え、ジュニアになる年代の5・6年生の部において手具を採用してはどうか。また、3・4年生の部においては審判数が多いため、上半身、下半身と分けているM審判を統一する等対策を講じ、審判数を減らしてはどうか、という提案がでた。

チャイルドルール担当の橋本理事より、3・4年生の部は多少の変更を考えており、将来的には賛成である。しかし、審判の技術力向上も目的のひとつとしてこのルールは作成されているので、現状の技術力を分析すると今統一する時期ではないと判断する。

二木会長および関田常務理事より育成には上半身、下半身と丁寧に指導していくのは良いが、大会では一緒に見るのが妥当であることが伝えられた。ルールについては再検討することとなった。

2. 関田常務理事より、5・6年生の部、3・4年生の部両方とも手具を使用させることが提案された。

秋山理事より、この大会のために半年間手具を持たずに練習するクラブもある。

二木会長よりクラブでの練習では手具を持っていて、大会では手具を持たないのはおかしいのではないか。

渡辺常務理事より徒手の重要性が浸透した現在は手具使用をしても良いと思われる旨が伝えられた。

以上の様な応答の後、徒手競技、大会の意義等検討し導入について再検討することとなった。

3. 秋山理事よりキッズコンテストで柔軟性が無い子がこの大会で成績を収められないので早めに新体操をあきらめてしまう意見を聞いたことがあり、特徴をのぼずルールを採用出来ないものか提案された。

山崎理事より大会全体をコンテスト方式にする方法等が提案されたが、今後大会の方向性を含み検討していくこととなった。

2 お試しバッジテスト・実施報告(定款第5条関連事項)

議長は説明者として池田理事を指名し、池田理事は下記内容の説明を行った。

バッジテストを一般の方に試していただく「お試しバッジテスト」をチャイルド選手権の期間中の2月22日と23日の2日間にかけて開催した。参加者が喜ぶようにお試しバッジテストの審査員を日本トップ選手である横地愛さんをお願いした。参加者は約300名と予想を上回る選手たちが受けてくれた。テストは1級の6つの項目の中から、比較的場所をとらない「長座」「ひざ立ち」を体験版として採用した。

参加した子供たちは真剣にそして楽しそうに取り組んでいた。和やかな雰囲気の中の開催であったが、選手たちは2種類であってもとても緊張しており6種類開催である本番では子供たちの反応に不安を感じた。テストが終わると横地さんのサインが入った採点用紙とオリジナル携帯クリーナーをプレゼントとして参加者に渡したところ、参加者はとても嬉しそうに帰っていった。

バッジテストにおいてもアンケートを実施したが、まだ認知度は低く開催意義は大きかったと思われる。

質疑・報告

1. 福本副会長より、会場では子供たちが楽しそうであり、審査員はタレント性がある人がやるのが良いと思われたと報告された。

関田理事よりテストと言う言葉が気になるが、全国にテキスト等を配り、浸透させるのが良いと伝えられた。

以上の様な応答の後、今後バッジテストをより浸透させ、普及させていくこととなった。

第1号議案 平成19年度第2回総会-平成20年度事業計画-について(定款第5章関連事項)
議長は説明者として池田理事を指名し、池田理事は下記内容の説明を行った。

平成20年度の事業計画を決定する総会が3月25日(木)11時より、第3回理事会会場と同じく霞会館にて開催する。

年間事業計画として、主なところとしては

- 8月29～31日 クラブ選手権(東京体育館)
- 9月13～14日 団体選手権(東京体育館)
- 10月10～12日 イオンカップ(東京体育館)
- 10月11日 新体操祭(東京体育館)
- 2月27日～3月1日 全日本チャイルド/キッズコンテスト(東京体育館)

開催を予定していた東西チャイルド選手権においては、東日本大会は駒沢体育館から他団体に優先予約する関係上、予約を受け付けることが出来ない旨の連絡を受けたこと、西日本大会は日程が「全日本」及び「福岡国際」と重なったため予約のとれる日程が無くなったことから開催を延期することとなった。

第17回全日本新体操クラブ選手権について

基本概要は前年度同様である。

以前理事会で1部リーグへ進出する個人選手の種目が毎年恒例化しているため、種目を変更することが検討事項として上がっていた。この場で種目割当について検討をお願いしたい。

前回大会フロアの使用方で、「Cフロアが見にくい」「1日目と2日目のフロア使用に無駄がある」と意見が出ていた。そのため、17回大会では2月に開催された「チャイルド選手権」を参考に3フロア横並びの同時進行案を進めたいが了承いただきたい。

質疑・報告

1. 谷口理事より平成19年度国内におけるジュニアの大会ではフープ・ボールが採用されていると報告された。

池田理事よりこの冬に演技を作成している選手が多いと伝えられた。

討議の結果、選手によっては1種目しか演技を持たない選手がいるため、今、種目を変更することは大会に出場できない選手ができることが考えられ、従来どおりの種目割当で行うこととなった。しかし、第18回大会からは種目の割当を変更していく方向となった。

2. フロアの使用方法については提案どおり認められた。

第8回全日本新体操クラブ団体選手権について

基本概要は前回同様である。

前回理事会においてシニア2手具採用の案が出たが平成20年度は例年どおりシニア1手具を採用するか、それとも2手具を採用するか検討をお願いしたい。

参加者が年々増加し、第7回大会で採用した、土日開催の1フロア単独進行では時間的な問題から開催できない恐れがある。そのため、ジュニアを2つのフロアに分け決勝を行う方式で実施したい。2フロア案で実施するのであれば決勝進出人数など検討いただきたい。

質疑・報告

1. 種目の割当については、その他大会の種目、各クラブの団体チームの練習状況等により、2手具にした場合は参加者の増加が見込めないため1手具ロープ5を割当種目とすることとなった。
2. 2フロア予選方式について、関田常務理事より事前にA競技フロアから何チーム、B競技フロアから上位何チームが決勝へ進出すると事前告知すれば2フロア制は問題ないことが伝えられた。
討議の結果、ジュニアの部は2フロア制を採用し、Aフロア上位8チーム、Bフロア上位8チームに決勝進出資格を与える。他方のフロア8位より9位の得点が高かった場合9位にも進出権が与えられる。予選時のA・Bフロア分けは完全抽選によって決めること。シニアの部は1フロアにて競技を行い1回の演技で順位を決定することとなった。

イオンカップ 2008 世界新体操クラブ選手権について

基本概要は前回同様である。日程は体育館予約日数の関係上ポディウムジャッジを行わない合計5日間開催の日程であることが説明された。

質疑・報告

1. 石崎常務理事より、毎年大会参加者から予選で4種目を実施したいとの要望を受けており、要望にこたえられる競技方法へ変更できないか提案された。
二木会長より、世界大会の意味合い上、大会が盛り上がる方へ方針を向けるべきで予選4種目実施で検討することが望ましいと伝えられた。
討議の結果、イオンカップ2日目に開催される日本新体操祭との関係を調整し、事務局で複数の予選4種目実施案を考案し、再検討、決定することが決まった。

第9回日本新体操祭について

基本概要は前回同様だが、イオンカップの開催方法にて日本新体操祭の開催方法も変更することが説明され、詳細はイオンカップ同様に再検討することが説明された。

質疑・報告

1. 実施方法を再検討することが決まったので質疑応答は無かった。

第11回全日本新体操チャイルド選手権・第8回全日本新体操キッズコンテストについて

事業計画で説明したとおり、東西チャイルド選手権が平成20年度開催しないこととなったため、全日本大会だけで開催すること。開催概要は前回大会と同様であることが説明された。ルール、審判等は報告事項の際、再検討されることが決まったと説明された。

質疑・報告

1. 実施方法を再検討することが決まったので質疑応答は無かった。

平成20年度セミナーについて

指導者育成セミナーは例年の継続事業となるので今年は初級集中3回、上級7回、海外2回で実施する予定であること。審判セミナーは各大会前の計3回実施することが説明された。

質疑・報告

1. セミナー開催については回数等確認され原案通り認められた。

バッジテストについて

バッジテストを本格開催するにあたり、テスト料、複数年計画等、競技、運営等の細かい話が必要となり、チャイルド選手権等同様再検討することとなった。

質疑・報告

1. 再検討が認められた。

平成20年度収支予算について

平成19年度と割合、金額等ほとんど同様で設定し、平成20年度予算合計額を2億7760万円とし、支出合計を2億7732万円、当期収支差額が28万円となること。収支・支出ともに平成19年度より100万円の増加があるように、各項目に多少の金額の増減があるのは実績を反映したことにより増減がでたことが説明された。

質疑・報告

1. 石崎常務理事より、チャイルド選手権優勝者を海外大会へ派遣し、チャイルド期から国際大会へ参加させ将来のレベル向上、国内モチベーションアップにつなげることが提案された。渡辺理事より海外研修として派遣しても良いのではないかと同調意見があった。現状の予算では調整が難しいので検討が必要となった。

第2号議案 その他

議長は議場にその他議案が無いか確認したがその他の議案は出なかった。

(6)閉会宣言

議長は他に質問、意見がないこと及び次回総会が3月25日、理事会が5月16日を予定すること、今回提案された再検討会を3月17日開催で調整することを確認し、理事会の終了を宣した。

この議事録が正確であることを証するため、議長ならびに議事録署名人は次に署名押印する。

平成20年3月6日

社団法人 日本新体操連盟 平成19年度第3回理事会

議 長 二 木 英 徳

議事録署名人 朝 倉 正 昭

同 池 田 真 喜 子